

## 研究情報の公開（オプトアウト）について

臨床研究のうち、患者様への侵襲や介入もなく診療情報等の情報のみを用いる研究では、国が定めた指針において、対象となる患者さまに研究に関する情報を公開した上で、拒否の機会を保障することが必要とされています。このような手法を「オプトアウト」といいます。以下の研究への協力を希望されない場合は、お手数ですが下記までお問い合わせをお願い致します。

研究のテーマ (研究番号)	「当院回復期病床における移乗用リフトの撤去に関わる因子について ーケースコントロール研究ー」 (承認番号：船K2026-2)
研究責任者	作業療法士 前田尚賜
研究の目的 及び意義	<p>当院では2008年度の開院より、常駐業者（ライフステップサービス）と協力しながら対象者に合わせた福祉用具の導入を行ってきた。フレーム式リフト・支柱式リフト（以下、移乗用リフト）は年間貸し出し台数が2020年20台、2021年18台、2022年36台、2023年41台、2024年55台と増加している。この要因は、当院が180床の回復期病院であり、3フロアで入院料1を算定しており、診療報酬改定に伴い回復期リハビリテーション病棟において入院料1を算定する際の重症度割合基準が2020年30%以上、2022年40%以上と増加していることが関係していると思われる。当院における重症度割合（日常生活機能評価10点以上）は2020年（1～12月）34.3%、2021年（1～12月）37.7%、2022年（1～12月）40.7%、2023年（1～12月）45.8%、2024年（1～12月）48.8%であった。</p> <p>北欧では、ペア・ハルヴォール・ルンデシステムと呼ばれる移乗技術が開発され、広く職場に普及している。この移乗技術は、利用者の自然な身体の動きを活用し持上げる代わりに、押す、引く、回転させるという技術を優先して、利用者とベッドの摩擦を軽減する簡単な補助具を使用する。また、座位も立位もとれない利用者には、2人以上の介護やリフトを使用するものである。</p> <p>当院は移乗用リフト導入の基準として、起き上がりや移乗が1人全介助で導入することが多いが、明確な基準は定まっていない。同様に移乗用リフトを撤去する場合の明確な基準も定まっていない。当院で移乗用リフトを導入している対象者は、先行研究で述べられているレベル3に相当するが、座位がとれない場合でも移乗用リフトを導入していない現状がある。その理由は、レベル3に相当する対象者全員に移乗用リフトを導入するには台数が不足しているためである。</p> <p>そこで今回の研究は、当院における2020年～2024年の5年間で移乗用リフトを導入した対象者を統計学的に分析し、当院における対象者の移乗用リフト撤去に関わる予測因子を示し、限られた数の移乗用リフトをより適切な対象者に使用することでスタッフの腰痛予防と対象者の自立支援につなげる目的である。</p>
研究期間	2026年1月30日から 2026年10月9日まで
研究の対象となる	2020年1月1日～2024年12月31日の期間に当院回復期病棟に入棟

患者様	し、移乗用リフトを導入した対象者 (入院1週間以内にリフトを導入していない対象者、褥瘡のある対象者、リフトを撤去した日から過去1週間以内に評価を行っていない対象者を除く)
使用させていただきたい情報	診療録より基本属性、医学情報、FIM運動項目の合計点、日常生活自立度、Bedside Mobility Scale(寝返り、ベッド上での移動、起き上がり、ベッド上での座位保持、いす上での座位保持)に関する患者情報。ただし、氏名や住所など個人を識別するための情報を除きます。
個人情報の取り扱い	<p>1) 個人情報の取扱いで個人が特定できる情報は使用しない。 データは全て院内サーバで保管し、パスワードによりロックをかけ管理する。データを持ち出す際は個人が特定できる全ての情報を取り除く。</p> <p>2) 収集する個人情報 診療録より基本属性、医学情報、機能障害、動作能力に関する患者情報とする。</p> <p>3) 匿名化の方法 無名化を行う(連結不可能匿名化)。</p> <p>4) 研究結果の公表 学会発表および論文投稿を予定。</p>
お問い合わせ先	<p>担当者：医療法人社団輝生会 船橋市立リハビリテーション病院 作業療法士 前田尚賜 電話番号：047-439-1200</p>